

「奥多摩自然観察会 (5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

お弁当を楽しんだ多摩川の河原では、あまり時間がなかった。この日はよく晴れていたものの、日中もかなり寒く、河原にじっとしているのもちょっとつく、参加者には「日なた」が人気だった。

しかし絵を描く時は、画用紙に日が当たるのは良くない。画用紙の白さで目が眩んで、塗っている色がよくわからなくなるのだ。できあがった絵を見ると、非常にコントラストが強くなっていることが多い。

どうしても日なたで描きたい場合は、「自分の影」で日がけをつくり、その影に画用紙を置くと良い。私は今回もその方法で描いた。



これが完成した絵「秋の氷川溪谷」。少し色味が少ないが、やはり現地で1から描いて仕上げた絵なので、私は気に入っている。



河原のすぐ上が「奥氷川神社」である。今回の自然観察会は「巨木を描く」ということがメインイベントだったので、この神社の境内が一番重要な場所だ。



これが、奥氷川神社の境内にある「氷川の三本杉」である。「三本杉」といっても、根元は癒合している。推定樹齢は700~800年。実に鎌倉時代に芽生えて、その後ずっとここで生きてきたことになる。樹高はおよそ50m。現在「東京都で一番高い木」と考えられている。これを絵の初心者が描くのは大変だ。



「氷川の三本杉」は、奥多摩駅前からもよく見える。①が「奥多摩駅の駅舎」。正面から見ると、まるで山小屋のようである。②が「氷川の三本杉」駅前の道よりも一段低い場所にあるのだが、樹木の上半分が見えている。③の背後の山は「愛宕山」。駅前にこんな急峻な山があるのは珍しいだろう。この愛宕山の山頂にも「愛宕神社」という神社がある。